

イヌとネコの臨床歯科学① 顎顔面の発生と解剖 正誤表

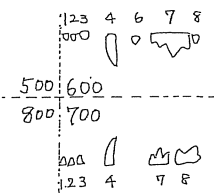
【誤】二重線を【正】二重線に訂正いたします。

読者、関係者各位にご迷惑をおかけいたしますこと、謹んでお詫び申し上げます。

記

p17「歯と歯周領域の解剖と機能」図 57 ネコの歯列

乳歯列	【誤】	【正】
	<u>312</u>	<u>313</u>
	313	312



※参考：上顎：乳臼歯は6, 7, 8ですが、形態は、それぞれ永久歯の6, 8, 9に類似

下顎：乳臼歯は7, 8ですが、形態はそれぞれ永久歯の8, 9に類似

p21「正常な歯列と咬合」図 69 キャプション 2 行目

【誤】下顎第 4 前臼歯と第 1 後臼歯が 【正】上顎第 4 前臼歯と下顎第 1 後臼歯が

p21「正常な歯列と咬合」図 69 キャプション 3 行目

【誤】上下顎の第 4 前臼歯と第 1 後臼歯が 【正】上顎第 4 前臼歯と下顎第 1 後臼歯が

p29「舌の発生と解剖」上から7行目

【誤】

舌尖から舌体までの舌2/3部分の知覚は三叉神経の枝である下顎神経舌枝が、味覚は顔面神経の枝である鼓索神経が支配し、舌根部は味覚を含む感覚のすべてを舌咽神経と一部迷走神経が支配している。

【正】

舌尖から舌体までの舌2/3部分の知覚は（味覚を含み）、三叉神経の枝である下顎神経舌枝が支配する。ただし、味蕾からの求心性線維は鼓索神経（顔面神経の枝）に伴行する。舌根部は味覚を含む感覚のすべてを舌咽神経と一部迷走神経が支配している。

p40「歯の発生」図 142、144

【誤】REE 【正】DF

p41「歯の発生」図 145 キャプション上から 2 行目～

【誤】

「～～、エナメル芽細胞より外側のエナメル器全体が退縮するが、歯頸部先端にのみ外エナメル上皮と内エナメル上皮（この領域だけではエナメル芽細胞に分化しない）の 2 層の細胞だけは歯根に向けて増殖する。これはヘルドヴィッヒ上皮鞘（HRS）と呼ばれ、～～」

【正】

「～～、エナメル芽細胞は機能を終え退縮する（REE:退縮エナメル上皮）。歯根を形成する予定の歯頸部にある 2 層の内外エナメル上皮（この領域にある内エナメル上皮は、エナメル芽細胞の分化しない）は歯根に向けて伸長する。これは、ヘルトヴィッヒ上皮鞘（HES）と呼ばれ、～～」

p41「歯の発生」図 146、147、p43 図 149、151

【誤】 HRS

【正】 HES

p43「歯の発生」図 149 キャプション下から 5 行目

【誤】 吸う細胞

【正】 数細胞

p63 索引の「は」の項

【誤】 HRS

【正】 HES

※p63 索引の「た」の項に追加 → 退縮エナメル上皮 REE 41

以上